フラッグフットボールの教育的価値に関する研究
A Study on educational value of Flag football

1K06B082　　北村　尚夫
指導教員　主査　原田宗彦先生　　副査　吉永武史先生

【緒言】

フラッグフットボールは、攻守ともに５人のプレーヤーによって作戦を創造し、その作戦を実行するスポーツである。アメリカンフットボールを基にして考案されたが、タックルやブロックといった人との接触プレーは禁止され、誰もが安全に楽しむことができる。最近では、２０１１年に施行される「新・学習指導要領解説」にも正式に例示として掲載され、小中学校で採択が可能になり、特に小中学生への普及が高まっているスポーツである。フラッグフットボールは、現代社会の風潮として、個性の重視と他者との共生というものが叫ばれており、そうした現代社会に適合している、とNFL JAPANの町田光氏は述べている。高橋はフラッグフットボールの教育的価値を５つ挙げているが、定期的にプレーする子供の成長として実際にどの程度認められるかを確かめることが本研究の目的である。

【結果】

第１次調査として、町田氏にフラッグフットボールの現状をインタビュー調査し、第２次調査として、特定非営利団体ワセダクラブの保護者、コーチ計５名にインタビュー調査を行った。質問紙に関しては、高橋の定義する５つの教育的価値に関する質問事項を作成した。その結果、インタビュイーはそれぞれ、概して教育的価値は高いと答えていた。そして第３次調査として町田氏と日本フラッグフットボール協会事務局長である佐藤壮二郎氏に、第２次調査の結果を見せた上でそれに対するインタビュー調査を行った。

【考察】

各質問項目に対する考察を以下に挙げる。

①PDSCの過程がある競技特性から、自主性、責任感が高まることが考えられる。

②５人全員が体を動かせる。フラッグフットボールを通じたここの役割の理解と戦術的な面での理解の成長が考えられる。

③導入のハードルが低く、男女かかわらず平等にプレーされることは可能であるが、そうしないことによるメリットもまたあると考えられる。

④導入のハードルが低いため、ルールの浸透や、競技自体に親しみやすくするという必要以上に、噛み砕く必要はないと考えられる。

⑤他のスポーツと比較すると、思考能力とコミュニケーション能力における成長が顕著だと考えられる。

⑥協調性、共同性の成長につながると考えられる。

⑦心の成長によって普段の生活の送り方が明るくなる、協調性、自主性、責任感がつくと考えられる。体の成長については、高い身体能力を必要としない競技特性上、有意な成長は認められないと考える。

【結論】

導入を簡単にすることで、身体能力や技術を持って優位に立てる可能性を最大限捨象し、戦術の占める比重を他のスポーツよりも増すだけ

で、我々が一般的に球技に持つイメージとは一転して、身体能力の高い者以外にも開かれるようになることと、社会における重要な様々な要素を教えてくれる教材となりうるということである。これが本研究を通したまとめである。先に挙げた教育的価値のうちの大部分を与えることが出来るフラッグフットボールは、これからの社会で今以上に必要となってくることを教育するのに最適のツールであるのではなかろうか。